

図書館で未知の扉をあけよう！

越谷市立図書館には、好奇心旺盛な中学生・高校生のためのティーンズコーナーがあります。読み物はもちろん、職業、スポーツ、料理、ペット、音楽、絵本など、いろいろな本が並んでいます。どうぞ図書館にきて、あなたの一冊を見つけてください。



『影との戦い ゲド戦記1』 ル＝グウィン／作 岩波書店

血気にはやる高慢な若者ゲドは、魔法の修行中に傲りと妬みの心から禁を破って、死の影を呼び出してしまいます。絶えず影に付きまわれ追いつめられたゲドは、師の魔法使いの助言により勇気を出して影を追うことによって、その正体を知ることができます。

自分自身に打ち勝つことがどんなに困難であるか、また真の友情がもたらす幸せを、アースシーという架空の世界を舞台に語られます。全5巻。

KY933/IL

『キリンの運びかた、教えます 電車と病院も！？』

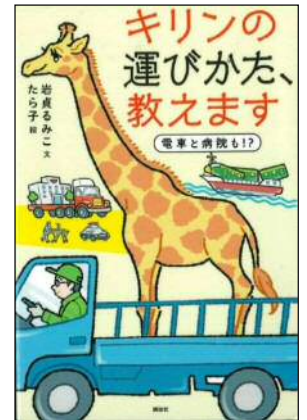
岩貞 るみこ／文 たら子／絵 講談社

私たちは、物を運ぶとき、かばんや台車などいろいろな方法を考えます。では、キリンを運ぶにはどうしたらよいのでしょうか。電車を外国に運ぶには…こどもの病院を運ぶには…。

この本は、知恵をつくし、情熱をかけて仕事をする「運ぶ」プロたちのお話です。

インターネットで何でも買えて、家へ運ばれてくる時代です。どこから、どうやって運ばれてきたのか、「運ぶ」という事を考えてみませんか？

KY680/I



『彼の手は語りつぐ』

パトリシア・ポラッコ／文と絵 あすなる書房

この本の舞台はアメリカ、南北戦争中に会った2人の少年の実話です。黒人少年ピンクと、白人少年セイは、どちらも奴隷制廃止を支持するリンカーン大統領率いる北軍の兵士でした。彼らの出会いは、セイが負傷しているところを、ピンクが助けたことがきっかけでした。

ピンクは言います、「おれはわかったんだ。たとえ奴隷でも、自分のほんとうの主人は、自分以外にはいない」と。

KYE/青

越谷市立図書館のおすすめ本

『あいたくて』

工藤 直子／著 大日本図書

だれかに あいたくて
なにかに あいたくて
生まれてきた—
そんな気がするのだけれど

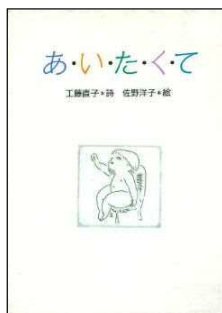
それが だれなのか なになのか
あえるのは いつなのか—

おつかいの とちゅうで
迷ってしまった子どもみたい
とほうに くれている

それでも 手のなかに
みえないことづけを
にぎりしめているような気がするから
それを手わたさなくちゃ
だから

あいたくて 「あいたくて」より

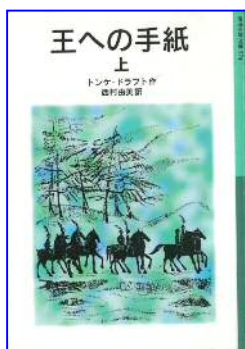
心に響く詩がたくさんあります **KY911/ク**



『王への手紙』上・下

トンケ・ドラフト／作 岩波書店

騎士になるための最後の試練の夜、必死に助けを求める老人の声を聞いた16歳の見習い騎士ティウリは、規則を破り礼拝堂を抜け出した。見知らぬ老人は重要な手紙をティウリに託すが、届けるはずの騎士は敵の罠に落ち、死の淵にいた。ティウリはその騎士から、隣国の王への手紙を届ける使者としての使命を与えられ、苦難の旅が始まる。



“助けを求める者の声”に従い、良心に恥じることなく進む少年は潔く、手助けをしてくれる周囲の登場人物もとても魅力的です。

KY949/ド

『光のうつしえ』

朽木 祥／作 講談社

夏の夜、川にはいくつもいくつも灯ろうが流れていく…。

希未のお母さんにも中学の美術の先生にも近所の須藤さんにも、原爆や戦争で大事な人を亡くした現実がありました。希未たちは、「よう知っと思うことでも、ほんまは知らんことが多い」ということに気づきます。家族や先生たちが、重い口を開いて語ってくれたことに真剣に向き合い、文化祭で「あのころの廣島とヒロシマ」というテーマで、気持ちのこもった作品を作りあげます。

KY913/ク



『ミカ×ミカ！』

伊藤 たかみ／作 理論社

ぼくとミカは双子の兄妹。小学生の頃、ミカは運動神経でも体力でもケンカでも、ぼくよりずっとすごかった。

そんなミカが突然、「女らしいってどういうことなん？」と聞いてきた。驚いたぼくに、ペットの青いインコ「シアワセ」が教えてくれたのは、ミカが告白してふられたということだった…。

双子のミカとユウスケの楽しく切ない14歳の物語です。

シリーズで、ふたりの小学生時代を描いた「ミカ！」もあります。

KY913/イ



越谷市立図書館のおすすめ本

『宇宙少年』

野口 惣一／著 講談社

15歳の少年は、テレビでスペースシャトルの打ち上げを見て、「宇宙に行きたい!」と思い、宇宙を目指す「宇宙少年」になった。

それから25年。彼が実際に宇宙へ飛び立つまでには、乗り越えなければならないたくさんの壁があった。怖さや不安にかられたこともあった。挫折やまわり道もした。

それでも彼は、「夢をかなえるための道のりに何ひとつとして無駄なものはない。」と語る。



15歳のときに抱いた夢を現実のものにした宇宙飛行士・野口惣一さんの子ども時代から、宇宙に行くまでの道のりや宇宙での体験がつつられています。

KY289/1

『センス・オブ・ワンダー』

レイチェル・カーソン／著 新潮社

レイチェルは甥のロジャーとよく海辺や森の中を探検しました。その時、星空や夜の海を眺めた経験を通して書かれた本です。

私たちが生きていく中で、自然にふれるよろこび、大地と海と空、そして、そこに住む驚きに満ちた生命の輝きを感じることの大切さをあらためて教えてくれています。

「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を磨いてステキな毎日を送りませんか？

KY404/カ

図書館にある場所です



『大人になるっておもしろい?』

清水 真砂子／著 岩波書店

大人になる一歩手前、学校で、毎日の生活で、尽きることのない悩みとともにあるみなさん。でも悩むことも傷つくことも“あなた”である証。本書は、心の奥ではもう気づいているひともいるはずの気持ちや、本当に大切なことを素敵な言葉にして伝えてくれます。



世界は広く、そして人はゆたかなものと教えてくれるのは、『ゲド戦記』の翻訳で有名な清水真砂子さん。きっと、あなたの世界はまだまだ広がります。もっともっと伸びやかに!

KY159/シ

『ぜつぼうの濁点』

原田 宗典／作 柚木 沙弥郎／絵
教育画劇



昔むかしあるところに、言葉の国の真ん中に「あ」から「ん」までの五十音が暮らすひらがなの国がありました。

長年「ぜつぼう」の「せ」の字に仕えた濁点あるじがいましたが、年がら年中頭をかかえて絶望する主の不幸は自分のせいだと思い、主に自分を捨てさせ、道端にぽつんとおりました。

頼みとするものもなく困り果てていたところにおおきな「おせわ」が現れ、存在する意味もない奴を世話するのが仕事だと、濁点を「せ」に乗せ走り出し…。

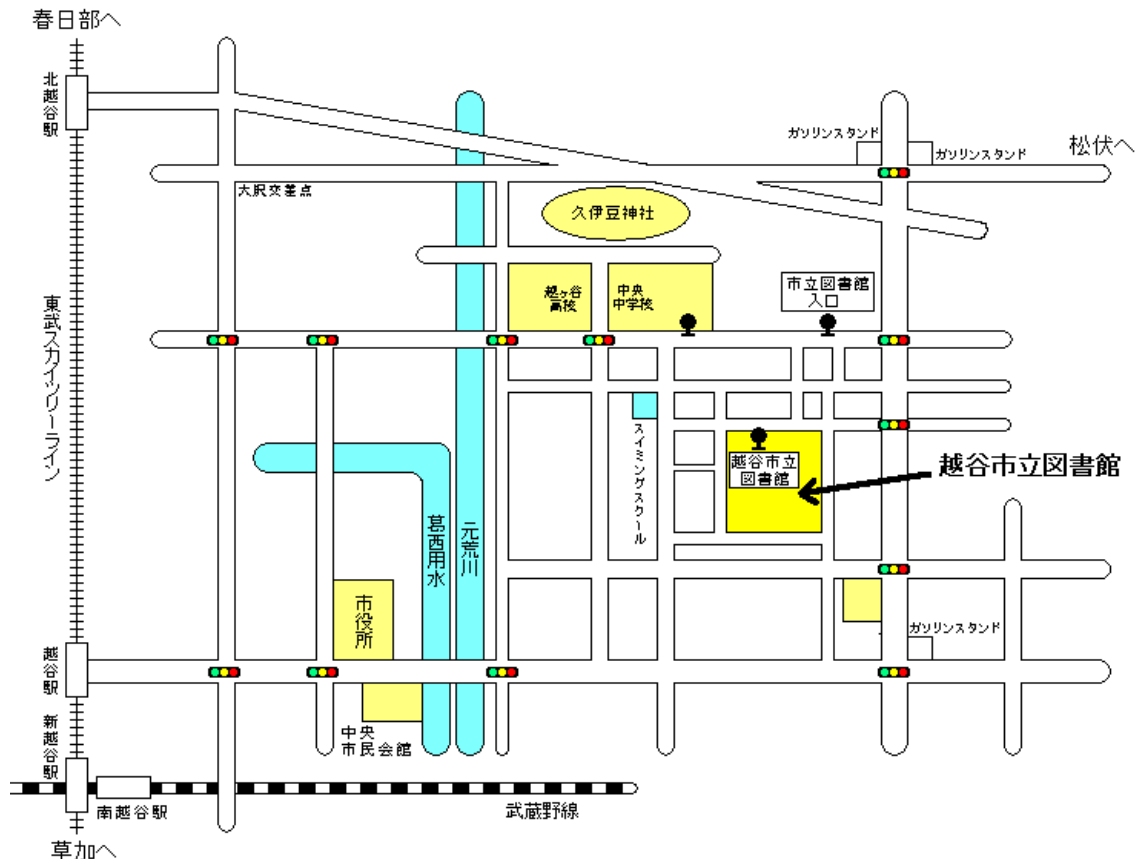
KYE/赤

越谷市立図書館利用案内

- ★開館時間
- ・ 午前10時～午後7時 (火曜日～金曜日)
 - ・ 午前9時30分～午後5時 (土・日曜日、祝日)

- ★休館日
- ・ 月曜日、振替休日など
 - ・ 館内整理日 (土・日曜日を除く月の末日頃)
 - ・ 特別整理期間、年末年始

- ★交通案内
- ・ 越谷駅
東口から朝日バス花田循環で、市立図書館入口下車・徒歩5分
または、越谷市立図書館ゆき、終点下車
 - ・ 南越谷駅
北口から朝日バス越谷市立図書館ゆき、終点下車



こしがやしひがしこしがや
越谷市東越谷 4-9-1

でんわ
電話 048-965-2655

ファックス 048-962-3054

ホームページ http://lib.city.koshigaya.saitama.jp/